

## 令和3年度 人権に関する県民意識調査の結果に係るこれまでの会議での意見（抜粋）

## 1. 第11期第2回会議（県民意識調査の結果全般についての意見）

## (1) 子ども・若者への教育・啓発のアプローチに関する意見

- ・自由記述に「年代が高いほど差別意識があるように感じる」が7件あったが、アンケート結果を見ると、先程の30歳代に関する意見とも関わるが、若い年代への働きかけをどうしていくのかが問われていると思う。
- ・私も20～30歳代の若い世代の人権問題に対する忌避意識が非常に高まっており、深刻に受け止めている。滋賀県の今回の調査でもその傾向が間違いなく見て取れると考えており、大学における人権教育、あるいは高校における人権教育のさらなる充実化の必要性があるということが、調査結果にはっきり出てきている。
- ・若者への啓発をどのように行っていくのかが重要であると思うので、（中略）私個人としては、周囲の人から駅の広告などは見ることが多いと聞くことがあるので、そうしたところで広告を大きく表示してみたり、あるいはInstagramやツイッターなどで情報発信をしてみてもどうか。また、若者については年代が若いほど学校教育よりは自分の「推し」やインフルエンサーなど、自分の好きな芸能人や有名人の言うことに影響を受けることがとても多いと感じる。新型コロナウイルス感染症のワクチン接種に関しても、国がユーチューバーとコラボして動画で情報発信をしているのを見たが、そういうものが若者に情報を届けるという意味で一番効果的ではないかと思う。
- ・30歳代になぜ問題があるのかということとは分からないが、若い年代への働きかけという点では、教育内容にも関連して議論したり工夫したりする必要があるのではないか。
- ・若者へのアプローチをどのように行うのかという話も交えた意見であるが、10代後半から20代前半という自分自身の価値観がある程度できてきている年代と、中学生・小学生以下の年代には別のアプローチが必要ではないかと思う。（中略）やはり子どもへの直接的な教育とは別に、義務教育の仕組みから大人がもう一步踏み込んで行かなければならないのではないか、ということが一点目の意見である。
- ・（幼稚園や保育園での性に関する教諭・保育士のアンコンシャスバイアスの事例を踏まえて）  
未就学児・小学校・中学校という教育の積み重ねで大人になっていく中で、子どもに直接勉強させるということだけでなく、もっと他にできることがあるのではないかと思う。

## (2) 特定の年代の意識に関する意見

- ・30歳代が人権に関する法律や条例を知らないと回答した比率や、住宅を選ぶ際に忌避する条件の各項目で「避ける」と回答した比率が高いこと、それからヘイトスピーチがよくないと回答した比率や啓発活動への接触状況が他年代より低いことなどから、30歳代が抱える課題が何かあるのか深める必要があると思う。
- ・30歳代や50歳代といった年代に関しても気になるところがあり、厚生労働省の調査で日常生活における一般的な悩みやストレスを感じる人が多いとされている20～50歳代の年代層のメンタルケアについても考えながら、その人たちの人権を守り、また逆に人権侵害をさせないようにすることも考えることが必要ではないかと思った。
- ・年代については、最近雑誌で50歳代には友人が一人もいない人がいる、という記事を見て驚いたことがあったが、人権とはやはり人間との関わりの中で生まれるものであるため、人間関係が希薄な人にとっては、人権を考えるということはあまりない。そういう状況があるということで、非常に深刻であると感じている。

## (3) 世代間の意識のギャップなどに関する意見

- ・若者をターゲットにする時にはどのようなツールでやっていくのかということを考えていかなければならないと思う。他方、今回の調査結果でもあったとおり、高齢者になればなるほどデジタルデバイドの問題があり、インターネットで情報にアクセスできないという問題もあるので、世代間の違いを考えながら啓発をするということも、とても重要であると思う。
- ・若者向けの方法や高齢者向けの方法、また学校や医療機関やなど、場面ごとにターゲットを絞った啓発が効果的ではないかと思う。
- ・(性の多様性に関する学習の状況を踏まえて)  
若者は我々には想像もできないほど、性の多様性について丁寧に教えられている。他方、70歳以上の人については、話を聞いてもなかなか腑に落ちないというように、世代間のギャップが非常に大きいように感じているので、それぞれの人権課題について、皆さんからご意見があったように、アプローチの方法やツールを含めて考えていく必要があるのではないかと思う。

## (4) 知識と行動のギャップに関する意見

- ・(国のハンセン病施策検討会での検討状況を踏まえて)  
「正しい知識があれば、差別や偏見を防止できる」ということで啓発をやってきたが、そ

れが行動変容に結びついていないということである。結婚、就職など、具体的に自分の周囲で問題が生じた場合、「差別はよくない」と思っている、実際にその思いに基づいて行動するのかという、そうではないということである。(中略) この問題については、人権施策に関わる人たちの知恵を結集し、知識の後の行動変容に結びつける何かを作り出さないといけないだろう。

- ・ 施策を考える上でのアイデアということであるが、(中略) 私も知識と行動にギャップがあるということ強く感じている。(中略) 小学校や中学校では子どもたちが様々な人権に関する授業を受けており、よい作品や作文も作られている。しかし一方では、人間関係のトラブルや仲間外しなどが日常的に発生しており、学んだことと行動のギャップが深くなってきているのではないかという印象がある。(中略) なぜこうしたギャップがあるのかということを分析しながら施策を考えていくことが大事なのではないかと思った。
- ・ 誰もが差別を受ける可能性があり、自分がしてほしいことを他人にしないということを学ぶことは非常に重要であるが、学んだことと行動のギャップがなぜ発生するのかということを分析していく必要があるだろうし、分析結果を施策に活かすことも必要ということである。

#### **(5) 他者への偏見や無理解に関する意見**

- ・ (障害者が地域での生活に移行しようとした場合に住民から反対を受けるという事例を踏まえて)  
偏見や無理解による意見を言われることが多く、(中略) そうした中で、正しい理解をする機会がないということを感じるので、どのような啓発活動であれば壁を乗り越えて行けるのか、といったことは考えていく必要があると思う。

## **2. 第11期第4回会議 (同和問題に関する質問の結果に関する意見)**

#### **(1) 子ども・若者への教育・啓発のアプローチに関する意見**

- ・ (高校生を対象とした人権啓発講義での経験を踏まえて)  
相手の立場に立って物事を考えていくことが必要であるし、やはり差別の問題に関しては、「差別をしてはいけない」という意識を持つことが大切である。「差別してよい自由」などというものはこの世に存在しないし、差別に反対する意識をしっかりと形成していくことが必要ではないかと考えている。

- ・若い世代が影響を受けるのは一番身近な人であり、自分が信頼している人や自分が好きな人の行動の影響を受ける人が多いと思われる。学校であればスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーのことが好きな子どもがいると思うが、そうしたスクールソーシャルワーカーなどに対して、同和問題のことを教育的な視点から伝えることができるのかということや、できていない場合にそうした取組を行ってはどうかということをご提案させていただきたい。
- ・「こころやわらかく」の冊子の四コマ漫画がとても分かりやすかったので、SNSやテレビCMで発信する際、こうしたストーリー仕立てで発信するとよいのではないかと感じた。このように短くてキャッチーな方が、掴みとしてはよいと思う。
- ・若い世代には教育の影響が大きいと考えられるが、人権に対する意識には本人の幸福度のようなものに関係しているのではないか。本人がしんどい状況であると、周りに対する意識も厳しいものになってしまうと思われるので、そうした部分についても何らかの対応を考える必要があるのではないか。  
 そのように考えると、差別はいけないことだと教えるのはもちろんのことではあるが、差別的な考えを持つ子どもには、何かその子自身が持つしんどさのようものが影響しているとも思われるので、そうした点も丁寧に見ていく必要があるのではないかと感じた。
- ・(自尊感情が持てない子どもにどのように接していくのが大きな問題となっているということを踏まえて)  
「～してはいけない」といった禁止的なものの言い方をしがちであるが、問題に対処する場合には「～しよう」というように、積極的な呼びかけをした方がよいのではないかと考えている。
- ・先程の委員のお話にもあったとおり、差別を跳ね返す力を育てるということが必要であると思うが、滋賀県として、どの学校でもそうした力を育てていける教育を行っていただけるようお願いしたい。

## (2) 特定の年代の意識に関する意見

- ・30歳代から40歳代になると自ら問題の解決に努めることに消極的になる傾向があるということについては、同和問題に限らないのではないかということが、調査報告書から感じたところである。
- ・20歳代までと30歳代以上の違いに関して、20歳代までは同和問題を抽象的に捉えて

いるのに対し、30歳代になると結婚や家の購入など、具体的な問題として捉えることになる。その際、今まではあまり意識していなかった自分の中の差別意識が表出してしまい、それが消極的な意識を持つ人が増える傾向につながるのではないかと個人的には感じている。